

評価対象	羅 針 盤		方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は85%以上である。	生徒及び教職員間でスクールポリシーを共有し大規模校、共学校としての良さを生徒に感じさせる。	B	A	A	全学年の生徒も目標値を達成している。特に3年生については93.8%に達し、3年間の本校の教育が有意義であったことを証明している。今後も校長のリーダーシップのもと、3つのポリシーに基づき、3年間での人間育成を目指していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動は小中学校での積み重ねがあって、高校でより質の高いものになると考えられるが、特に2学年においては、グループ活動など、コロナ禍で様々な活動が制限されたことが数値の悪化につながったものと考えられる。</li> <li>探究の集大成であるポスター発表の完成度が低いように感じる。特に質疑応答でのディスカッションが重要であるが発表に行われている様子が見られない。</li> <li>先行研究をいつでも閲覧できるようにしたり、探究の過程のサイクルを増やすなど改善が必要である。</li> <li>探究授業を深掘りして、生徒と教師が一体となれるような取組が必要である。</li> <li>SSHにおいて、学年を超えた共有など縦の連携を進めていただきたい。</li> </ul>
		②部活動や特別活動に主体的に取り組み、充実感を持っている生徒が75%以上である。	部活動や特別活動を通して、人間力が向上できるように主体的な活動を促していく。	A	A	A	生徒、保護者の達成度は概ね上昇したが、職員の達成度は若干下降した。引き続き次年度も部活動や特別活動を通して主体的な活動ができるよう環境を作っていく。	
		③SSHを含む探究の活動について、成果があがっていると評価する教員が75%以上である。また、充実感を持って取り組んでいる生徒が75%以上である。	学年を超えて探究活動の内容・成果の共有を行い、縦の連携を深める。また、SSH事業や探究活動の成果を校外に広く発信するとともに、発表会が多くの人へ発信する有意義な場となるよう職員全体で計画的に研究活動を支援する。	C	B	B	生徒の達成度は昨年度より上昇したが、本研究の2年生が67.6%と他学年に比べ極めて低い値となった。また、職員の達成度は昨年度より下降し、5.6%が探究活動の成果が全くないと答えている。次年度に向けてまずは2年生の結果を分析し課題を洗い出すこと、次に職員間で引き継ぎを含めた成果と課題の共有を行うことが必要であると感じる。また、1月末の1、2年生の発表会を充実させ、生徒の意欲向上に繋げていきたい。	
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④授業を工夫するなどして、生徒の実態に応じた指導を行っている教員が90%以上である。	授業研修(年2回)により、指導力及び生徒理解力の向上を図る。	B	A	B	ほぼ昨年と同様の結果であるが、授業の工夫について満足する生徒が増加傾向にある。生徒の好反応を材料に教職員の士気を高め、校内の授業研修への参加意欲を高め、好循環へと展開していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善では先生方の努力の成果の現れである。引き続き、指導研修等により指導力および生徒理解の向上を進めてもらいたい。</li> <li>家庭での学習時間を増やさせることは、大切なことではあるが、むやみに課題を課すのでは生徒にとって、負担を増やすだけである。可能であれば、長期的な課題や自分のレベルに応じた課題を出すなど、個々に応じて取り組めるシステムを構築できれば、主体的に学習する習慣を身につけられると考えられる。</li> <li>保護者、生徒、教師のベクトルを合わせる仕組みが欲しい。</li> </ul>
		3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤教科学力が向上したと感じる生徒が70%以上である。	客観的な指標として模擬試験結果や大学合格状況を活用し、中期的な課題を明確化し適切な対策を講じる。	B	C	B	
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥学級担任による個人面談を、年3回以上実施している。	生徒理解を深めるため、定期面談以外にも必要に応じて実施する。	A	A	A	生徒理解に関しては各学年主任を中心として定期的な二者面談以外にも、時に応じて個人面談を実施することが出来た。また、得た情報を学年、学校全体で共有することができるように心掛けた。来年度は担任だけでなく、教科担当者の意見も取り入れられる体制を構築したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心安全な学校生活を送るために、生徒理解、ルールやマナーの遵守など、生活面において充実した取組が見られる。今後も引き続き指導して欲しい。また、教育相談体制の充実も図っていただきたい。</li> <li>より良い環境で生徒が学校生活を過ごせるよう、生徒の意見を取り入れた「校則の見直し」などを積極的に実施し、生徒主体の校風を作りあげて欲しい。</li> <li>地域としても積極的に防犯等の情報を発信していきたい。学校内においても、より一層ハラスメント防止やいじめのない環境作りに努めて欲しい。</li> </ul>
		⑦生徒に対して、挨拶、服装、交通マナー等についての指導を月1回以上行う。	規範意識の向上を図るため登校時指導やサポーター運動、日常生活の中で適宜指導していく。	A	A	A	社会的ルール・マナーを守っていると回答した保護者・生徒が大多数であった。日常生活の中では「歩きスマホ」等の光景はまだ散見され、引き続き日常生活の中で声かけを必要とする。次年度はマナーアップ運動の回数も減少するが、普段の呼びかけを増やし啓発の機会を設定する。	
		5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑧本校は「いじめ防止活動」に取り組んでいると評価している生徒が、80%以上である。	いじめ防止活動を計画に基づいて生徒会を中心に実施し、学校行事やあいさつ運動等の中で呼びかけていく。	A	A	A	
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨1日あたりの欠席、遅刻、早退の合計人数は全生徒数の3%以内である。	長期欠席等を引き起こさないよう、教育相談体制の充実に取り組んでいく。	B	A	B	保護者、生徒ともに遅刻欠席をしないという意識はかなり高い。実際には季節にもよるが欠席者の数が多いこともある。引き続き教職員スクールカウンセラー外部機関などと連携し、長期欠席を引き起こさないよう迅速に対応する。	
		⑩ルールを守り、規則正しい生活を送っていると自己評価している生徒が80%以上である。	規範や健康意識への向上を図るため、生徒会からの呼びかけや集会等での注意喚起を行う。	B	A	B	80%以上の生徒が体調管理に努め、規則正しい生活を過ごしていると答えているが、昨年度より数%減少した。引き続き規範の遵守や健康への意識について注意喚起、呼びかけを行い、生徒自ら考え、行動できるよう指導を工夫していく。	
		⑪キャリア教育や進路学習会等において、進路意識が高まったと評価している生徒が75%以上である。	学年集会や進路学習会などをきっかけにし、自己の将来について考察する。	A	A	A	各学年の進路学習会や学年集会において、キャリア教育や大学進学情報を中心に生徒に伝えるよう心掛けた。進路学習会では予備校関係者に講演会をお願いして、入試に関する過去のデータや最新情報を伝えてもらうと共に、生徒、保護者が今後どのような高校生活を送ればよいかなどのメッセージを伝える内容とした。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑫進路ニュース・進路だより等で、必要な情報が得られていると評価している生徒が、75%以上である。	入試の変更点や動向について、生徒・保護者に伝えるため、必要に応じて発行する。	A	A	A	来年度から大学入学共通テストをはじめとして、入試が大きく変化する。その情報を「進路ニュース」だけでなく、各学年の「学年便り」も活用してタイムリーに情報が届くよう学年と協力したい。	
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬自己の生き方と職業との関連を意識し、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が75%以上である。	志望校検討会等を通じて、生徒の情報の共有を図る。進路指導部が中心となって、組織的に進めていく。	B	B	B	情報は十分伝わっているとアンケート結果からは分かるが、これが生徒の実際の生き方まで浸透していないということが今後の課題である。来年度は、学年集会の数を増やすなどして、直接生徒に伝わるよう内容の工夫を行いたい。
	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭Webページによるタイムリーかつ魅力的な情報発信に努め、週1回以上の更新を行い、トピックの追加を行う。	開かれた学校づくりにむけ、現在の更新頻度を維持できるよう、今後も定期的に職員に資料提供を求めていく。	A	A	A	Webページを中心に積極的に情報発信を行い、Webページへのアクセス数が昨年度と比べておよそ1.5倍に増加した。より魅力的なコンテンツを提供していくため、職員への協力を要請する。	
⑮在校生保護者及び中学生を対象とした学校公開等を年4回以上実施している。		中学生の学年ごとに実施するなど、参加を促す工夫をする。また、部活動公開及び体験入部を加え、参加意欲を高める工夫をする。	A	A	A	中学3年生の進路希望調査結果では県内1位の志願者数、志願率となった。校長のリーダーシップのもと、中学1～3年生対象の説明会や部活動公開等をのべ6回実施した。また在校生保護者については、文化祭、予餞会、探究発表会など計4回実施することができた。次年度以降は進路指導部と連携し、各学年の進路保護者会と授業公開を同日開催することにより、さらに公開の機会を増やしたい。		
⑯PTA総会、各学年保護者会などの参加率は、全生徒数の50%以上である。配信されるPTA新聞の「見ました」の割合が全生徒数の80%以上である。		情報の発信については、保護者の都合を考え遅くとも一ヶ月前に連絡をする。配信版のPTA新聞には、迅速な配信を心がける。	B	B	B	PTA総会、文化祭、学年保護者会等多少の制限はあるが、概ね活動が再開され参加率もともに戻ってきている。昨年同様にClassi配信等により本校の教育活動の情報発信に努めるとともに、新たなPTA活動のあり方についても模索していく。		
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑰スタディサプリや教育プラットフォーム(ClassyやG Workspace)等を用いた課題指示又は配信を実施している教員が90%以上である。	入学時や年度初めのオリエンテーション等において、効果的活用に向けた生徒への指導を丁寧に行うとともに、職員へのサポートも適切に行っていく。	B	B	B	教職員アンケートでは活用していると答えた教員がおおよそ93%であったことに対して、生徒アンケートではおよそ70%であった。利用する側が活用しているという意識は薄いが、確実にICT活用が進んでいると考えられる。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑱会議で配付される紙媒体資料は必要最小限であると認識している教員が95%以上である。	教務部と連携し、事前に会議資料をデータでまとめ、全職員が安全に閲覧できる環境を整える。	B	B	B	情報部を中心に職員会議・成績会議等の全職員参加会議では、ほぼ100%達成することができた。各分掌会議や学年会議など小規模会議では紙ベースとなってしまう。校務運営委員会が各分掌や各学年に協力を依頼し、さらなるペーパーレス化を推進していきたい。